台湾台湾内政、日台関係をめぐる動向（2011年7～8月）

藍軍の分裂と民進党の副総統候補の指名

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

2000年以降、台湾の政党政治において国民党とはライバルであり、また友党でもあった親民党が次期立法委員選挙において独自候補を10名発表するなど国民党は15選挙区前後で分裂選挙を余儀なくされる見込みとなった。また宋楚瑜親民党主席が、9月上旬に条件付きながら次期総統選への出馬を表明した。民進党陣営は、蔡英文主席が政策綱領を公表したが、従来の主張を超える内容ではなかった。蔡主席は、9月9日に次期総統副総統選挙の副総統候補に蘇嘉全秘書長を指名した。日本の野田内閣発足に対し、台湾でも大きく報道され期待と関心の高さを伺わせた。

1．藍軍協力問題：親民党の動きを中心に

台湾政治において表面上は国民党の友軍とされてきた親民党が立法委員選挙の小選挙区で独自候補を擁立し、更には宋楚瑜主席が条件付ながら、総統選挙への出馬を表明するなど、選挙戦に大きな変化が現れた。

（1）親民党が立法委員選挙（小選挙区）で独自候補を擁立へ

次期総統選挙で再選を目指す馬英九総統にとって、最大のライバルとなるのは野党民進党の蔡英文主席であることは論を待たないが、敵と戦う前に国民党内部、親民党、新党といった友党も含めた藍軍（泛藍）の支持を固めることは非常に重要である。前回の総統、立法委員選挙では、馬英九ブームともいえる追い風が吹いていたこと、議会選挙の小選挙区制度への移行もあり、友党の親民党、新党は離島地域の選挙区を除き小選挙区にはほとんど独自の候補を立てず、改選時に現職委員であったの親民党籍立法委員は国民党に入党し、国民党候補として選挙に出馬する戦略を選択した。

しかしながら、馬英九政権の施政が台湾住民の十分な期待に応えていないという世論の不満から、立法委員補選、2009年の地方選挙などで国民党は苦戦を強いられ、昨年の直轄市長選挙では、現有議席（台北、新北、台中）を確保したものの得票率では民進党に後塵を拝したことは記憶に新しい。

次期国政選挙まで半年を切る段階になり、藍軍内部の不協和音、特に宋主席が率いる親民党と国民党の矛盾、軋轢が際立つようになった。昨年の直轄市長選挙では高雄市長選挙において、国民党候補に勝ち目がなかったとはいえ、宋主席は友党の国民党候補ではなく、民進党を離党して無所属で出馬した楊秋興高雄県長（当時）を支持したことで、実情はともかく表面上は協力体制を誇ってきた藍軍の団結に大きく影を残した。[1]

（9月上旬の段階でウイキリークスから提供された公電にて台湾要人が米国関係者に語った暴露話は、政局、次期総統選挙にも影響を与える可能性があるところ、次号でその発展を述べたい。）

2011年初頭に、当時の金溥聰国民党秘書長が宋

氏を誹謗罪で告訴するなど関係が悪化した国親関係に対し、藍軍系メデイア、関係者は早急に国親党首会談である「馬宋会談」の実現を呼びかけたものの、諸処の理由から実現せず今日に至る中で、双方の関係者からはマスコミを通じて批判合戦をする泥試合が演じられてきた。

７月に入ると親民党の動きが活発化し、同党関係者から親民党の立法委員選挙にかかる独自候補の擁立、宋主席自身の出馬の可能性を幕僚が示唆するようになった。その後も、元親民党立法委員で2009年の花蓮県長選挙で国民党候補を退けた傅崑萁花蓮県長が宋主席の花蓮選挙区からの出馬を呼びかけたり[2]、長く不仲とされてきたが最近関係を修復したとも言われる李登輝元総統がマスコミに対して「宋楚瑜は政界で大きな役割を担うことに期待する」と発言するなど、古くて新しい話題でもある非国民党、非民進党の「第三勢力」結集への動きかとの憶測も生まれた。[3] 更に、宋主席は一貫して馬英九総統の姿勢を批判する反国民党の論調の『自由時報』紙の独占インタビューを受け、立法委員選挙の選挙区、比例区への出馬については、親民党が３議席を確保すれば議会で一定の存在感を示せると述べ自身の出馬についても否定しなかった。また総統選挙についても最新の世論調査では自分への支持率が10％以上あり、多くの関係者が総統選挙への出馬を促しているとし、出馬の可能性を排除しないと指摘するなど、国民党との対決姿勢を明白にした。[4]

またその一方で、親民党は国民党との次期選挙に関する協力、対話の可能性を完全に閉ざしたわけではないとのメッセージも発し続けた。「馬宋会談」への足慣らしとして、８月上旬に国親両党の秘書長、廖了以氏と金秦生氏の秘密会談が行われ、次期立法委員選挙の協力につき意見交換したものの合意に至らなかったと報道された。[5]

国親秘書長会談の決裂報道から２日後の８月10日に親民党は、満を持して次期立法委員選挙の選挙区候補10名を発表した。[6] 10名の中には、現前元職立法委員のほか、現職の台北市、台中市議（台湾の規定では国政選挙出馬に際して地方議員を辞職する必要はない。）著名作家の李敖氏、マスコミ関係者など一定の知名度を有する人物の名前が連なった。『聯合報』は親民党の10名の公認候補の他にも、国民党に近い新党系、無所属候補も含めると15選挙区で国民党は分裂選挙を強いられると分析している。[7]

秦秘書長は、「親民党は独立した政党であり、民主政治の本質は人民が主となることである」と指摘し、「2000年以降の台湾社会は藍緑（国民党と民進党）の対立に引き裂かれ、変化こそが未来を創造できる」と強調し、「理想、長期的視野を有し、国民に支持される関係者を国会に送り込み、責任ある態度で政府を監督したい」と説明した。

宋主席は、「親民党の使命は国民の政府、民主に対する信頼の回復であり、台湾は『二度目の静かなる革命（二次寧靜革命）』が必要である」と指摘し、「同革命には政府の効率、能力及び産業、農業、国土計画を含む国家の体質を全面的に改造する必要がある」と強調した。また、宋主席は自身の動向については、明言を避けたが、リンカーン、鄧小平、チャーチル、レーガンなど過去の政治家が選挙での敗北、失脚を経て、高齢にもかかわらず最高主導者に登りつめた事例を挙げ、「重要なのは過去の敗選や年齢ではなく、個人の治国能力と奉献する意欲である」と述べたことから、台湾各紙は総統選挙出馬の可能性もあると大きく報じた。[8]

親民党の動きを受けて、同日国民党は廖秘書長が親民党の主体性を尊重するが、引き続き国親間の実質的な協力関係を促すことを希望するとの声明を発表した。[9] 同秘書長は、現在の台湾の立法委員選挙が小選挙区制度のため藍軍（泛藍）が団結しなければ、他者（民進党）が漁夫の利を得ることとなるので、国親双方で協議の上、統一候補

を決めるよう提案した。また馬主席自身も宋主席との会談を通じて意思疎通を図る希望を持っているとして、親民党に対して党首会談を呼びかけた。

王金平立法院長は、「親民党の議会選挙における独自候補の擁立は、国民党への衝撃は避けがたく、党はしっかり努力して、親民党と交渉しなければならない」と強調した。一方、「漁夫の利」を得ることになると指摘された民進党は、プレスリリース等を通じての正式な意思表明はされず、陳其邁報道官が記者の取材に対し「親民党の立法委員選挙候補擁立により、青軍の分裂は決定的になった」と述べるにとどまった。[10]

記者会見の翌日、テレビのインタビューを受けた宋主席は、「先月よりは総統選挙に出馬する意向は強くなっている」と指摘した。[11] 右に対し、国民党は報道官が引き続き、国親協力の努力を継続すると低姿勢を堅持し、次期選挙への協力を模索するとの立場を表明するにとどまった。[12]

親民党の議会選挙候補の擁立は、台北市３、台中市２、台南、高雄、金門、山地、平地原住民各１となっているが、台南を除けば殆どの選挙区で藍軍系の得票率が緑軍系のそれを大幅にリードする強い選挙区であり、勝算を見込んでの擁立である。

一方、宋主席の狙いは、同記者会見における言及が国会（立法院）に多く割かれ、総統選挙に出馬しても当選する可能性は極めて低いことを踏まえた現実的な考慮から、本当の狙いは総統ではなく議会選挙にあるのではないかとの指摘がされた。[13] 実際に、政党得票率で５％を確保し比例区議席での獲得がなされれば、国民党の議席減と民進党の議席増が期待でき、国民党の議会運営に関しキャスティングボートを握ることになる。その一方で、『聯合報』は社説で宋主席の真の目的は、総統選挙への出馬で（自身の当選よりも、蔡英文を助けることになることを承知で）馬総統を引きずりおろし、国民党の立法委員選挙の議席の大幅減を狙ったものとの指摘がされ、その動向を厳しく批判する論調も見られた。[14]

こうした流れを受けた中で８月中旬から下旬に実施された『聯合報』による世論調査では、「双英対決」の場合は馬44％蔡36％と前月調査との比較で大きな差はなかったものの、宋主席が出馬したと仮定した調査では馬38％蔡31％宋15％という結果となった。[15] 馬と宋は、イデオロギー的には台湾独立に反対することを基調とした藍軍の政

表１　聯合報による総統候補の支持率調査

調査日	馬英九	蔡英文	宋楚瑜
7.10-13	44%	37%	—
8.11-14（馬蔡対決）	44%	36%	—
8.11-14（三人対決）	38%	31%	15%

資料元：「聯合報民調 馬38％蔡31％宋15％」『聯合報』（2011年８月15日）頁１。

表２　TVBSによる総統候補の支持率調査

調査日	馬英九	蔡英文	宋楚瑜
7.21	38%	36%	13%
8.15	39%	35%	16%
8.30	40%	32%	17%

資料元：「總統大選與統獨國族認同民調」『TVBS』（2011年８月30日）
http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201108/mcq69ajqc7.pdf

治家であるが、宋主席の支持は、馬総統の支持者だけでなく蔡主席の支持にも食い込んでいることが明白になった。宋主席の動向に関しては立法委員選挙に関しても影響があり、親民党の政党別支持率は、比例区議席獲得の最低基準である５％に達したという結果となった。[16] また同時期に実施された『TVBS』テレビの世論調査でも馬蔡宋の順位、支持率は大同小異であるが、宋氏の支持率が若干伸びているのが注目を引いた。[17]

藍軍内部の駆け引きに対し、民進党関係者は親民党の動向が選挙に与える影響を慎重に見極めている。匿名の民進党関係者は、立法委員選挙に関しては小選挙区制度のため民進党にとって有利なことは疑いないが、総統選挙に関しては宋主席は最終段階で出馬を取りやめることになれば、総統選挙では藍軍支持者はいずれも　馬に投票することが予測され、民進党にとって必ずしも有利には働かないとの慎重な見方を示した。[18] その一方で、次期総統、立法委員選挙の実施時期についての設問では台湾民衆の32％が正確に回答し、68％が知らないか間違いの回答であったことを示したように、台湾住民にとって選挙はまだまだ先の話という感覚なのかもしれない。[19]

親民党の動きに対し、国民党が暫時沈黙する対応をとったのに対し、藍軍の友党である新党は郁慕明主席らが宋主席に対し「二度目の静かなる革命とは何か。李登輝と協力して立法院長になりたいのか」[20]、「何を求めているのか、どんな職務に就きたいのか」と問いたて、宋主席の動機に疑義を呈し厳しく批判した。[21] また、同20日に建党18周年の記念党大会を開催した際に、同主席は党員に対し総統選挙では馬総統の再選を支持し、立法委員選挙では自身の出馬も含め新党にも機会を与えるよう訴えた。[22] また国民党内で本土派の重鎮とされる王金平立法院長は、藍軍の大団結を訴え、馬総統再選支持を声高に訴えるなど、藍軍内部では親民党以外には目立った離反の動きは見られない状況である。[23]

（２）宋主席が次期総統選挙に条件付ながら出馬の意向を表明

９月１日、宋主席は出演した有線テレビの政治討論番組で無所属候補として総統選挙出馬に必要な署名活動を始め、100万人以上の署名が集まり、選挙に十分な資金が集まれば次期総統選挙に出馬すると表明した。[24] また署名活動は９月22日から開始するとして15日には副総統候補も発表すると表明した。[25]『中国時報』は、副総統の人選については、李登輝元総統の仲介により2006年に陳水扁総統の辞任を訴える大衆運動を指揮した施明徳元民進党主席が有力であるとして、第三勢力が結集する方向に動いていると報じている。[26]

この動きに対して国民党は、金溥聰・馬英九選挙事務所執行長は論評しないと回答、頼素如報道官も「同決定を尊重するが、親民党には大局を重視してほしい」と述べるにとどまった。民進党陣営も蔡主席は「宋氏のいかなる決定も尊重する」とローキーな対応に終始した。[27]

総統副総統選挙にかかる規定によると政党の推薦を得ない無所属候補が総統選挙の出馬資格を得るには有効有権者の1.5％にあたる25万人7695人の署名が必要であると報じている。[28] 宋主席が100万人の署名が集まることを総統選挙出馬の条件に入れたことに対して民進党の立法委員は、「100万人の署名が集まれば、その勢いを駆って出馬へ突き進むことができるが、署名が不調に終われば撤退もできるとし賢明な選択であると評した。[29] いずれにしろ、不確定要素はあるにしろ、次期総統選挙は馬蔡の「双英対決」から、馬蔡宋の三者対決になる可能性が高まった。

２．総統選挙関連

民進党陣営の動きを中心に政策綱領（十年政綱）の公表、副総統候補の指名につき解説をする。

（1）民進党の政策綱領の発表

陳其邁民進党報道官は8月15日に「十年政綱」と名づけた同党の中長期的な政策綱領を翌16日以降から順次発表し、24日の中央執行委員会、28日の全国党員大会で正式に採択されると公表した。[30] 同綱領の内容は「総綱」と称した総論のほか、国家安全、両岸貿易、雇用、産業、エネルギーなど18項目の内容を含むとされた。各チームは過去1年半の間に100回以上の専門家会議を開催し、蔡主席自身も50回以上の会議で指揮をとったと説明した。陳報道官は右綱領は将来、立法化を通じて諸政策は実施されることになるので、台湾の将来において非常に重要な改造法案となると指摘した。

「十年政綱」は同16日に「財政編」[31]、17日に「地域発展と治理編」[32]、18日に「住宅編」[33]、19日に「教育編」[34]、22日に「総綱（総論）」[35]、そして23日に最も注目を集めた「両岸経済貿易」と「国家安全戦略編」[36] がそれぞれ発表された。発表の形式は、蔡主席と綱領づくりに携わった専門家がソファに座りマスコミと対話する形式で行われた。23日の発表会で日本との関係では「国家安全戦略編」の政策主張部分でアジア太平洋国家との地域協力を強化し、地域の平和を護るとし、地政学、歴史的関係からも台湾と日本は一貫して密接な関係を有しており、日本とは更に関係を深めたいとの言及がされた。

両岸関係に関しては、中国政府が実質上、両岸対話、協議の前提条件として主張している「92年コンセンサス」[37] を受け入れるか否かについての対応が最も注目されたが、蔡主席は「同コンセンサスは存在していないので受け入れるか否かという問題も存在しない」とし、右に代わるものとして「民主的メカニズムを通じて内部のコンセンサスを凝集する『台湾コンセンサス』を形成させる」と指摘したことで、翌日の台湾各紙は、「蔡英文は92年コンセンサスの受け入れを拒否」とし一面トップで報じた。[38] 一方、現政権の両岸関係における大きな進展とされるECFA（両岸経済枠組協議）に関しては、「すでに両岸で調印、実施され、既成の事実であるところ、2012年に民進党政権が成立した後は、民主的手続きと国際的規範にしたがって処理する」と述べ、以前主張していた「ECFAの存続にかかる住民投票に付す」という態度には微妙な変化が見られた。[39] これらの発言に関連して馬総統は、蔡主席の右発言に直接呼応したものではなかったが、中台間で53年前に起こった軍事衝突「823砲戦」の地である金門島における記念活動での演説で「『92年コンセンサス』の存在を否定することは両岸関係を不安定にする」と強調し、安定した両岸関係の運営には、同コンセンサスの遵守が必要であるとの認識を改めて示した。[40] 国民党は、荘伯仲文傳會主任委員が蔡英文のECFAに対する態度が「全て反対」から、「現状受け入れ」に変化したとして、「歓迎」する旨表明した。また、陳以信報道官は「92年コンセンサス」の受け入れを拒否したことに関し、蔡主席は自己の立場だけ語り、中国に対する態度は始終片思い的なものであり、「92年コンセンサス」を受け入れないまま両岸関係を推進していこうと考えるのは国家指導者としてあるべき態度ではないと批判した。[41]

筆者は、民進党は次期総統選挙での主要イシューは両岸政策ではなく、内政の中でも経済、社会面の民生イシューを主に取り上げ、現政権の失政を批判するスタイルを取るのではないかと予測していたが、今回の一連の政策綱領の発表後にその思いを更に強くさせた。今年2月に蔡主席は両岸関係のあり方に関して『和解しながら相違点を残す（和而不同）、和解しながら共通点を求める（和而求同）』という曖昧な表現を提出した際には、野党だけでなく与党からもわかりにくいという指摘がされたが、今回も国民党が主張する「92コンセンサス」代わる新たな論述はなく、「和而不同、

和而求同」を引き続き主張した。かかる姿勢に対して、『中国時報』は蔡主席の戦略は両岸政策を曖昧にし、陳水扁が執政していた時代の「法理的独立」を目指す路線を止揚したという指摘がされた。[42] 両岸関係の改善と進展を大きな業績として主張する馬総統に対し、蔡主席はあたかも両岸政策に関する正面対決を避け、「雇用」、「公平社会」、「持続的発展」、「環境保護」、「住宅」など民生問題を前面に打ち出して選挙戦を戦う姿勢を明白にしたが、同選択が吉とでるか否かは注目されるところである。

（２）蔡英文主席が副総統候補に蘇嘉全秘書長を指名

馬総統が５月に呉敦義行政院長を副総統候補に選出した際、蔡主席は「何故そのように急ぐのか」と自身の副総統候補（副手）の選出は急がないとして余裕を見せていたが、６月以降、各世論調査で馬総統との支持率の差が開く中で、党内や民進党支持者の中からも副総統候補の選出を先延ばしにしていることや、選挙戦略、党務運営に対する不満が一部関係者から出るようになってきた。元立法委員の郭正亮氏は、月刊誌へ寄稿した文章で蔡主席が克服すべき点として「党内派閥に引っ張られず、理念を持ち党を指導する」、「選挙イシューの主導」、「両岸関係の現実を正視し、将来の不確定間を除去する」を掲げた。[43] 裏返せば、党運営が派閥闘争の影響を受けて支障をきたし、従来民進党が得意とされた選挙イシューの設定に関しても後手に回り、両岸関係の論述が曖昧で台湾住民にも民進党の政権復帰には不安感があると取れる。これらの不安要素を払拭し、蔡英文陣営の気勢を高めるものと期待されるのは副総統候補の選出である。

８月上旬の時点では、28日の全国党員代表大会前に決定されるとの報道が出たが（同大会は台風で延期となった）、９月１日には週刊誌の報道をカバーする形で大手各紙は蔡主席は李登輝元総統を通じて彭准南中央銀行総裁に副総統候補の職を受け入れるよう説得したが失敗したと報じた。[44] 右報道により、蔡主席の「副手」選びは戦略的に決定を遅らせているのではなく、意中の人物に首を立てに振ってもらえない事実が浮き彫りになった。蔡主席は当初、彭総裁をはじめ、民進党政権時代の閣僚クラスの経済人、学者、司法界など政治的色彩の薄い人物を標的に物色していたがすべて失敗した結果、蘇貞昌、蘇嘉全といった党内政治人物の可能性が再浮上したと報じられた。[45]

その後、９月８日に蔡主席は蘇貞昌氏に副総統候補になり、ともに選挙戦を戦うことを要請したが、自身は立法委員選挙の比例区名簿にも載っているところ、不適切であり、選挙対策事務所の主任委員の仕事を全うする必要があるとして断った旨を記者会見で説明した。蘇氏の拒絶により、当地マスコミは蘇嘉全秘書長の可能性が高まったと報じている。９月９日、蔡英文主席は党幹部を伴い、記者会見を開催し、自身の総統選挙にかかる副総統候補（副手）に蘇嘉全秘書長を指名した。同会見で蔡主席は、「蘇秘書長は戦え、勇気があり、爆発力のある候補者である。今日蘇秘書長を副手に指名したことは、中部台湾の民進党の気勢を高め、選挙情勢にプラスになる」と語った[46] 。指名を受けた蘇秘書長は、「民進党にとって次期選挙を必ず勝てる選挙であり、また台湾住民の真因を必ず獲得することができ、如何に困難なことがあっても自分は蔡主席を補佐することができる」と強調した[47] 。

民進党が「蔡蘇ペア」（勝利者（贏家）」の音と似ている「英嘉」ペアとの呼び方もされている）を正式に決定したことに対し、馬主席、廖秘書長などから正式な声明は出されていないが、匿名の国民党幹部は右ペアは「意外ではない」と平静を装い、民進党が決戦は中部台湾と強調したのに対し、「（国民党は）中部台湾をしっかりと守り、南

台湾こそが決戦の地である」が、国民党の既定策略であるとして、相手の言動に惑わされず自らのペースで選挙戦に臨む姿勢を強調した[48]。

こうした次期総統選挙4カ月前になって、国民党の馬英九呉敦義ペアに民進党の蔡英文蘇嘉全ペアが挑む対決の構図が整った。

（3）「首投族」をめぐる与野党の攻防

次期総統選挙の趨勢は拮抗しているが、20－29歳の青年層は与野党にとって支持獲得を目指す重点対象となっている。政府が今年6月に公表した統計に依拠すると20－29歳の青年層は343万人であり、その中で今回初めて投票権を得た「首投族」は約128万人いるとされている。[49]

これらの層に対し馬、蔡両陣営はともに大学を中心としたキャンパスに深く入り込む策略を採るだけでなく、多様な方法を駆使して青年層の支持を得ようと努力している。

馬陣営は、再選をめざすにあたり若年層の支持の獲得は「双英対決」の重点とみなしており、同陣営は積極的に馬総統にキャンパスで若者と接する機会をアレンジしているほか、インターネットなど「新媒体（メディア）」に照準を絞り、選挙にかかる動員の効果を発揮することを期待している。[50] 具体的には、馬選挙事務所は4月以降、平均して週1校以上大学を訪問し、青年らと対面し、彼らとの距離を近づける方策を採っている。

表3は総統府と民進党のホームページを元に馬英九、蔡英文両名が今年の3－6月の間に大学（一部高校もあり）を訪問し、座談会、卒業式などのイベントに参加したものをまとめたものである。馬総統は公職の関係上、公務として、学校行事に呼ばれて挨拶などをすることは普通ではあるが、それ以外にも積極的にキャンパスに入り込んで若者に対し自らの施政や理念を訴える姿勢が伺える。民進党陣営も蔡主席は公的な肩書きは無いものの講演という形で台湾全島を廻り若者と対話を

表3　馬英九、蔡英文の青年を対象とした活動への出席状況

	馬英九		蔡英文	
3月	大学訪問 青年交流活動	2 1	大学訪問	4
4月	大学訪問 青年交流活動	5 ―	大学訪問	4
5月	大学訪問 青年交流活動	6 2	大学訪問	3
6月	大学訪問 青年交流活動	7 2	大学訪問	2

資料元：総統府ホームページ、民主進歩党ホームページから整理。

重ねている。

選挙戦の当初は、「若年層の支持が多いのは蔡英文」という指摘が各世論調査でなされたが、最近の世論調査では大きな変化がみられる。9月上旬に実施した自由時報による世論調査では、支持率は二強対決の場合は馬36.87、蔡33.92、三人対決の場合は馬31.46、蔡28.23、宋14.68と他機関の調査と比べて大同小異である一方で、20-29歳の支持率調査では馬41.86、蔡31.40と馬総統が10ポイントも上回る結果が出ており、馬陣営の努力の成果がでたものと指摘できる。[51]

夏休み期間中、蔡陣営はインターネットを利用した方法で支持の拡大を広げる策略を採るが、9月以降の新学期にはキャンパスを巡回し、青年たちと座談会を開催し対話を重ねることで支持獲得を狙っている。[52] また同陣営は、今選挙での主要な選挙主張の一つである「貧困に対抗（対抗貧窮）」との選挙主軸に関連した、「就学ローン」、「住宅ローン」、「消費者債務処理」などにかかる法案の推進を準備し、若者に間にも顕著に見られる「格差」の縮小などに絞り、青年層の支持獲得を企図している。

過去の選挙でも若者は、理想、希望を与える候補者に惹かれる傾向があるとされ、2000年の総統選挙では、（当時は）清心なイメージを有していた陳水扁氏が若年層の強い支持を得たことは記憶に

新しく、「首投族」を巡る攻防は選挙戦を観察する上で違った趣を与えるはずである。

3．陳水扁前総統の裁判：国務機密費にかかる差し戻し審判決で無罪

陳水扁前総統は昨年 11 月、土地取引に絡む収賄事件で懲役 11 年、人事にかかる収賄で懲役 8 年の実刑判決を受けて昨年 12 月から収監されているが、その際に機密費とマネー・ロンダリングの裁判に関しては控訴審に差戻されていた。8 月 26 日、台北高等法院は差し戻し審で同事案での「汚職」に関しては無罪判決を下した。一方、文書偽造とマネーロンダリングに関しては計 2 年 8 ヶ月の判決を言い渡し、翌日の台湾各紙は一面トップで報じた。[53]

4．日台関係：民主党代表選挙と野田佳彦内閣の成立

菅直人総理の辞任に伴い、実施された民主党の党代表選挙に関し、当地メディアは「5 人での争い」、「日本の世論調査では前原前外相がリード」と報じるなど関心の高さを示していた。8 月 29 日に実施された代表選挙についても、決選投票の末、野田財務相が海江田経済産業相を逆転し、新代表に就任し、次期総理大臣に内定したとの事実関係の流れを翌日の一面で大きく報じた。[54]

台北駐日経済文化代表処の陳調和副代表は『中央社』のインタビューに対し、「野田総理は日台議員友好連盟の会員であり、また日台安保経済研究会の会員でもあり、過去には台湾の国慶節などのイベントにも参加するなどは台湾と良好な関係を維持しており、総理の交代で日台関係が大きく変わることはないであろう」と指摘した。[55]

『自由時報』紙は、写真付きの記事で野田総理は日本において 5 年間で 6 人目の総理であるが、その先行きは楽観できない情勢であるとの分析をしたほか[56]、海江田経産相の敗北は、小沢時代の終を意味すると指摘するなど日本政局に対する関心の高さも伺えた。[57]

9 月 2 日に野田内閣が正式に発足するとその顔ぶれに対し、前述の陳副代表は、「野田内閣には 4 名の日華議員懇談会のメンバーがおり、台湾とは良い関係を維持できるであろう」との見通しを語った。[58] 3 日の朝刊では、野田内閣の課題は東北大震災からの復興と福島の原発事故の処理にあると紹介する一方で[59]、閣僚メンバーが若返ったこと、台湾人を父に持つ蓮舫参議院議員が行政刷新担当の大臣に留任したことなどを詳細に報じた。[60]

1　ウイキリークスが公開した文書によると 2007- 8 年当時、朱立倫新北市長（当時桃園県長)、王金平立法院長などが米国在台湾事務所（AIT）関係者に藍軍内部の複雑な権力闘争を赤裸々に語っている。「維解爆料 朱立倫：王金平曾邀當副手」『聯合報』（2011 年 9 月 7 日）頁 1 。

2　「傅崑萁：老宋，請來花蓮選立委」『聯合報』（2011 年 7 月 18 日）頁 4 。

3　「李登輝：宋楚瑜優秀應該做大一點」『聯合報』（2011 年 7 月 18 日）頁 4 。

4　「親民黨主席宋楚瑜：2012 我一定參選」『自由時報』（2011 年 7 月 25 日）頁 5 。

5　「國親秘書長密會 立委提名喬不定」『聯合報』（2011 年 8 月 8 日）頁 4 。

6　親民党ホームページ「親民黨第一波立委提名新聞稿」（2011 年 8 月 10 日）http://www.pfp.org.tw/news/news_detail.php?gid = 1&id = 1292&p = 1635　2011 年 8 月 13 日にアクセス。

7　「親民黨立委提名今公布 10 人名單 泛藍 15 地同室操戈」『聯合報』（2011 年 8 月 10 日）頁 1 。

8　「選總統？宋：羨幕鄧小平、雷根」『中國時報』（2011 年 8 月 11 日）頁 4 、「再選總統？宋：給我時間考慮」『自由時報』（2011 年 8 月 11 日）頁 4 。

9　中国国民党ホームページ「廖秘書長：國親合作，共推候選人」（2011 年 8 月 10 日）http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id = 32&aid = 6271　2011 年 8 月 13 日にアクセス。

10　「馬：尊重親民黨　仍盼共同推參選人」『自由時報』（2011年8月11日）頁4。
11　「宋：參選總統意願比七月高一點」『中国時報』（2011年8月12日）頁6。
12　中国国民党ホームページ「賴素如：國民黨繼續努力，回應多數選民期待」（2011年8月11日）　http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id = 32&aid = 6276　2011年8月14日にアクセス。
13　「務實的宋省長 準備當宋立委」『聯合報』（2011年8月11日）頁4。
14　「宋若不選總統，為何立委烽火提名？」『聯合報』（2011年8月15日）頁2。
15　「聯合報民調 馬38％蔡31％宋15％」『聯合報』（2011年8月15日）頁1。
16　「不分區政黨票 親民黨跨5％門檻」『聯合報』（2011年8月15日）頁4。
17　「總統大選與統獨國族認同民調」『TVBS』（2011年8月30日）http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201108/mcq69ajqc7.pdf　2011年9月4日にアクセス。
18　「橘參選 綠評估：立委有利 總統難講」『中国時報』（2011年8月12日）頁6。
19　「1月投票僅32％知道」『聯合報』（2011年8月15日）頁4。
20　「郁慕明批宋：與李結合 相當院長」『中国時報』（2011年8月17日）頁4。
21　「郁慕明4問 宋楚瑜你要什麼」『聯合報』（2011年8月19日）頁6。
22　「郁：新黨要『二次撥亂反正』」『中国時報』（2011年8月21日）頁2。
23　「旗幟鮮明 王金平不一樣了」『聯合報』（2011年8月23日）頁2。
24　「宋表態有條件參選總統」『聯合報』（2011年9月2日）頁1、「連署破百萬就選總統宋單挑馬英九」『自由時報』（2011年9月2日）頁2。
25　親民党ホームページ「連署公告」http://www.pfp.org.tw/news/news_detail.php?gid = 1&id = 1300&p = 1643
26　「第三勢力推動　宋楚瑜 施明德搭配選總統」『中国時報』（2011年9月2日）頁1。
27　「藍：盼以大局為重 綠：藍玩火自焚」『自由時報』（2011年9月2日）頁2。
28　「參選總統 連署門檻25萬7695人」『自由時報』（2011年9月2日）頁2。
29　「敵軍観火　連署測水溫 綠營：高招!」『聯合報』（2011年9月2日）頁3。
30　民主進歩党ホームページ「《十年政綱》將出爐，陳其邁：下一階段台灣重要改造綱領」（2011年8月15日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5215　2011年9月1日にアクセス。
31　民主進歩党ホームページ「『十年政綱－財政與稅制篇』媒體座談會_蔡英文：政府要有財政責任感，強化國家理財及債務控管能力」（2011年8月16日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5218　2011年9月1日にアクセス。
32　民主進歩党ホームページ「『十年政綱－區域發展與治理篇』媒體座談會_蔡英文：讓地方政府有財政自主，主導地方經濟發展」（2011年8月17日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5235　2011年9月1日にアクセス。
33　民主進歩党ホームページ「「十年政綱－住宅篇」媒體座談會 張景森：建立公平、合理、現代化的不動產」（2011年8月18日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5243　2011年9月1日にアクセス。
34　民主進歩党ホームページ「十年政綱「教育篇」媒體座談_蔡英文：推動十二年國教8年內達到「全面免試」」（2011年8月19日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5249　2011年9月1日にアクセス。
35　民主進歩党ホームページ「發布十年政綱 蔡英文：強化台灣、凝聚共識」（2011年8月22日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5257　2011年9月1日にアクセス。
36　民主進歩党ホームページ「十年政綱『國家安全、兩岸經貿篇』媒體座談 蔡英文：尋求戰略互利，和世界一起走向中國」（2011年8月23日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5261　2011年9月1日にアクセス。
37　馬英九総統の主張は「92年コンセンサス」とは「1つの中国を各自がそれぞれ述べる（一中各表）」との立場を取っており、台湾にとっての「1つの中国」とは中華民国を指している。中国政府は「92年コンセンサス」の中身については「一つの中国原則」公の場でほとんど言及していないが、従来の立場は「海峡両岸はともに一つの中国原則を堅持する」である。拙稿 「馬英九政権の対中国政策―両岸関係の改善と今後の課題―」『問題と研究』（2008年10.11.12月号）頁42-43。
38　「蔡英文公布政綱 拒絕九二共識」『中国時報』（2011年8月24日）頁1、「蔡：無92共識 推臺灣共識」『自由時報』（2011年8月24日）頁1、「蔡英文：九二共識不存在」『聯合報』（2011年8月24日）頁1。
39　「蔡英文：ECFA既成事実　循民主程序処理」『中国時報』（2011年8月24日）頁2、「小英：執政後完整評估ECFA」『自由時報』（2011年8月24日）頁3。
40　「馬英九 推翻九二共識 兩岸陷不確定狀態」『中国時報』（2011年8月24日）頁3。
41　中国国民党ホームページ「蔡英文兩岸政策像月亮，初一、十五不一樣」（2011年8月23日）http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id = 32&aid = 6328　2011年8月26日にアクセス。
42　「模糊兩岸政策 蔡揚棄扁戰法」『中国時報』（2011年8月24日）頁2。

43　郭正亮「蔡英文的有利情勢面臨考験」『中国評論』（2011年8月号）頁22。
44　「蔡英文求助李登輝遊説 彭淮南再拒副手」『聯合報』（2011年9月1日）頁1。
45　「蔡英文夢幻副手破局　雙蘇可能逆轉」『聯合報』（2011年9月1日）頁3。
46　民主進歩党ホームページ「『英嘉配』出線　葬英文：打造不一様的台灣」（2011年9月9日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5353　2011年9月9日にアクセス。
47　民主進歩党ホームページ「出任葬英文副手　蘇嘉全：一定打贏選戦（2011年9月9日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn = 5324」2011年9月9日にアクセス。
48　「藍：固守中台　決戦南台」『聯合報』（2011年9月10日）頁2。
49　「明年大選首投族128萬票」『自由時報』（2011年8月1日）頁5
50　「馬英九　與青年有約鎖定新媒體」『自由時報』（2011年8月1日）頁5
51　「本報民調 馬36.87% 蔡33.92%」『自由時報』（2011年9月8日）http://www.libertytimes.com.tw/2011/new/sep/8/today-fo1.htm 2011年9月9日にアクセス。
52　「蔡英文　九月第二波校園再巡回」『自由時報』（2011年8月1日）頁5。
53　「更一審大逆轉 國務費案判無罪 扁笑了」『中国時報』（2011年8月27日）頁1。
54　「新日相　野田佳彦出線」『自由時報』（2011年8月30日）頁1、「野田佳彦當選日民主黨魁 將成新首相」『中国時報』（2011年8月30日）頁1。
55　「日本新首相 野田佳彦出線」『中央社』（2011年8月29日）http://www2.cna.com.tw/SearchNews/hyDetail.aspx?qid = 201108290155&q = %e9%87%8e%e7%94%b0　2011年8月31日にアクセス。
56　「日相5年6換恐也坐不穩」『自由時報』（2011年8月30日）頁9。
57　「解讀新聞　奪權三度敗北　小澤玩完了」『自由時報』（2011年8月30日）頁9。
58　「日新內閣起跑 台日關係穩定」『中央社』（2011年9月2日）http://www2.cna.com.tw/SearchNews/hyDetail.aspx?qid = 201108290155&q = %e9%87%8e%e7%94%b0　2011年9月3日にアクセス。
59　「日新相新政　野田重建內閣啓動」『自由時報』（2011年9月3日）頁12。
60　「內閣年輕化　拼經濟搏重建」『自由時報』（2011年9月3日）頁12。